

医学系研究に関する情報の公開について

| | |
|-----------------------|---|
| 研究機関名* | 独立行政法人労働者健康 安全 機構 大阪労災病院 |
| 研究課題名* | 成人脊柱変形に対する矯正固定術の患者満足度調査 |
| 所属科* | 整形外科 |
| 研究責任者* | 長本 行隆 |
| 研究実施期間 | 開始 西暦 2018 年 7 月 1 日 ~ 終了 西暦 2023 年 6 月 30 日 (予定) |
| 対象疾患 (予定症例数) | 成人脊柱変形 (100 症例) |
| 研究対象となる治療・手術・検査の時期 | 自 西暦 2001 年 1 月 1 日 ~ 至 西暦 2022 年 6 月 30 日 |
| 研究概要* | 高齢化社会に伴い脊柱が側弯（横だおれ）もしくは後弯（前だおれ）に変形し、著しい ADL 障害をきたす患者が増加している。そのような症例を成人脊柱変形と呼称し、2012 年以降、本邦のみならず全世界で、急激に成人脊柱変形に対する矯正固定術が広まった。当科ではそれに先立って 2001 年以来、脊柱バランス/アライメントの破綻をきたした症例（成人脊柱変形、腰椎手術後バランス/アライメント破綻、Parkinson 病に伴う脊柱変形）に対して症例を選んで脊椎矯正固定術を施行してきた。手術により、腰背部痛の改善、整容の改善、食欲の改善などが期待できるが、一方で術中から術後長期に至るまで様々な重大合併症が生じうる。この手術に関して、患者満足度の調査はほとんどなされておらず、当院で行われているような術後長期経過症例に対する満足度調査の報告はこれまでない。本術式の適応や意義を再考する上でも患者満足度調査は非常に重要と考える。 |
| 倫理的配慮・個人情報の保護の方法について* | 連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署（施設・研究室）で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。 |
| 研究の問い合わせ先* | 整形外科 長本 行隆 (PHS 4048) |

* 記入必須項目